

建築人

2025
10

Osaka Association of Architects & Building Engineers
Newsletter "Kenchiku-Jin" No.736

シリーズ 大阪・関西万博をめぐる





「MOAIの独言」

日々心に引かれた光景やモノをスマホで撮影、加工した作品
私が惹かれるのは
蓄積された時間が感じられるモノや光景
自然の造形物
今その時しかない光
固定概念にとらわれず自由に感じてください

Photographer MOAI

岩手県盛岡市出身
1985年大阪芸術大学卒
同年広告企画制作会社にカメラマンとして入社
あらゆる業種業態のクライアントの撮影に携わる
1996年フリーランスとなりPhoto Office MOAI設立
大阪を拠点に広告写真を中心に活動中

建築人

2025.10 No.736

Osaka Association of Architects & Building Engineers
Newsletter "Kenchiku-Jin"

表紙の建築 「茨木市文化・子育て複合施設 おにクル」 2023年

第17回 建築人賞 受賞作品

設計：伊東豊雄建築設計事務所・竹中工務店共同企業体

施工：竹中工務店

撮影：佐々木慧（表紙）・ナカサアンドパートナーズ（裏表紙上）

茨木市中心部に大ホール、図書館、子育て支援施設などを集約した公共複合施設。「立体的な公園」をコンセプトに、ランドスケープと建築が相互に浸透しあうと共に、積極的な市民参画により「日々何かが起こり、誰かと出会う」公共空間の実現を目指した。

2 MOAIの独言

4 Gallery 建築作品紹介

「尼崎園田えぐち内科・内視鏡クリニック」

設計：一級建築士事務所 アトリエm

施工：カタヤマ建築工房

「一般社団法人環境文化史創造研究所 本部」

設計：北條建築事務所

施工：矢羽田工務店

「Breathes through the courtyard」

設計：マニエラ建築設計事務所

施工：三幸建設

7 シリーズ 大阪・関西万博をめぐる

8 動静レポート

9 Topics

10 Information

12 News of Note

14 記憶の建築

「新発田カトリック教会」1966年

記憶装置としての建築と写真と / 松隈 洋

建築人 No.736 2025年10月号

監修 公益社団法人大阪府建築士会 建築情報委員会

編集 建築情報委員会『建築人』編集部

部門長：松下典央

委員長：武藤優哉

編集人：河野 学 荻窪伸彦 笠松哲司

川北武志 小谷美樹 昇 勇

中北 力 橋本頼幸 春岡須磨子

三谷勝章 村上栄司 山本恭史

事務局：辻本和人 母倉政美

ロゴ・フォーマットデザイン 芝野健太

印刷 中和印刷紙器株式会社

令和7年10月1日発行

発行人：会長／岡本森廣

発行所：公益社団法人大阪府建築士会

〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17 高田屋大手前ビル5F

tel. 06-6947-1961



「患者さんでなくても立ち寄ってほしい。曲面状の本棚があるクリニック」このコンセプトが出来上がった時、一気にイメージが固まった。

待合室は天井高さが2.9mあり、本棚を半径5.5mの円を描くように13mに渡って配置した。蔵書は知人からの寄贈だ。院長は本棚裏のカウンターで、学生がコミックを読んだり、受験勉強をしてくれたらと願っている。色々な悩み相談にのってあげたいとも。患者に長く居て貰えるよう、各椅子は座り心地最優先で厳選した。元気な時から知っていれば、受診時にその変化がよく分かる。その思いを空間化したのがこのクリニックである。地域の人達の交流の場となれば嬉しい。

所在地：兵庫県尼崎市
用途：クリニック
竣工：2024.09
構造規模：RC造
地上8階建
2階改修
延床面積：265.93㎡
写真：富田英次



築約40年の木造古屋を改修し研究施設として活用した。和室と玄関、階段部分を、ゆとりのある土間ワークスペースに造り変えた。所属研究員と協力研究員が自由活発に交流できるセミパブリックな空間として、入口はW1500の木製建具で建物内外をなめらかに繋ぐような構えとした。元和室の面影をなにか残せないか思案していたこともあり、オンラインを含めた大人数での会議や資料を広げて作業する際の音環境に配慮して、既存畳を吸音材として天井に吊った。栗材天板の10人掛けテーブル(2400×1680)を中央に、都市環境や建築文化の研究施設として、既成市街における古家活用を牽引する事例となることを願う。

所在地：大阪府和泉市
用途：研究施設事務所
竣工：2025.06
構造規模：木造2階建て
敷地面積：129.72㎡
建築面積：80.19㎡
延床面積：151.47㎡
写真：笹の倉舎／
笹倉洋平



敷地は明石海峡大橋を望む北側の斜面で周囲は住宅に囲まれ、外部環境には恵まれていなかった。そのため、建物の中心に「人が自然と共に呼吸できる空間＝中庭」を設け、閉じられた環境の中に開放性をもたらすことを目指した。3層にわたる吹抜の中庭は、最下層に水盤を湛え、地下の和室に光と風を揺らし込む。地上と地下に配した緑は層を貫き、またリビングとダイニングをゆるやかに繋ぎ、家族の声や気配が中庭を介して縦横に行き交う。地下のコンクリートと上層の木造という異なる質を重ねながら1つにまとめられた建築は、中庭を通して光と風、緑と人の気配を束ね、住まう人と自然を再び結び直す。

所在地：兵庫県神戸市
用途：専用住宅
竣工：2025.08
構造規模：木造+RC造
地下1階
地上2階
敷地面積：218.25㎡
建築面積：129.50㎡
延床面積：352.30㎡
写真：松村芳治

2025年 大阪・関西万博の会場全体計画

会場デザインプロデューサー 藤本壮介



万博とは、現代においてどのような意義を持っているのだろうか。

私が会場全体計画を検討し始めた時期は、ちょうど新型コロナウイルスによるロックダウンやアメリカのトランプ大統領による政策によって、分断する世界がまさに広がろうとしている時期であった。それに対して、万博というフォーマットは、世界中の人々がその国の文化を持ち寄って、半年間も一か所に集まって交流するきっかけをつくり出している。私は、いまの時代だからこそ、この万博のフォーマットの尊さそのものの価値を大切にしたいと考えた。

建築とは、人々が集まる場所をつくる、ということであると私は考えている。世界中から多様な人々や文化が共存してつながっている、ということダイレクトに表現する姿として、円という形に辿りついた。

会場全体計画と密接に結びついた大屋根リングは、日差しや雨風から守られた主動線として機能するだけでなく、それそのものが、世界中のどんな文化圏の方に対しても、「ここに世界が集まっている」ということが伝わる、力強いメッセージを発信している。

また、大屋根リングは歴史とも接続している。それは、日本に1000年以上ある伝統的な木造建築を参照し、現代の最先端の技術と組み合わせることで、世界最大の木造建築物を実現していることである。さらに、1970年の大阪万博で、丹下健三さんによるお祭り広場の大屋根を突き破るように立ち上がった、岡本太郎さんの太陽の塔が示そうとしていた未来の姿を引き継ぐことである。

今回の万博を通して改めて痛感したのは、この世の中で起きている状況を実際に全身で体験してみることの重要性である。建築は社会と密接



に結びついた存在であるがゆえに、様々な矛盾を抱えてしまうものである。そうした矛盾が時に独り歩きして、社会に不安や疑念が広がってしまう危険はあるかも知れない。しかしながら、そうした矛盾を抱えたままに立ち上がるがゆえに、我々の想像を超えてくる尊さが建築にはある。

これから社会はより多様で、より複雑になっていくだろう。私はその多様さや複雑さを受け止めながらも、世界はやはり素晴らしい、と多くの人が思うことができる未来に、建築を通して貢献し続けたい。



動静レポート

会長動静

- 8/26 大阪府収用委員会協議
- 8/27 JICA とのミャンマー支援協議
- 8/28 大阪府収用委員会協議
- 8/29 交野市長面談
- 9/1 高槻市長面談
- 9/2 第3回関西 Innovation Cross Forum
京都大学大学院・小見山講師面談
- 9/3 日本建築士会連合会正副会長会議
- 9/4 全日本不動産協会大阪府民大会
全国木材産業振興大会
- 9/5 正副会長会議、運営会議
- 9/8 ミャンマー歴史的建造物修復協議
- 9/9 国際シンポジウム協議
- 9/10 大阪府収用委員会、理事会
- 9/12 ウクライナ訪日団レセプション
- 9/14 建築学生ワークショップ日本国際博覧会 2025
- 9/18 日本建築士会連合会理事・士会長
合同会議
- 9/19 建築士会全国大会おおさか大会
- 9/20 大阪・関西万国博覧会
- 9/22 香港工業総会および日本建築材料
協会との意見交換会
- 9/25 上海市勘察設計行業協会との意見
交換会

会長・役員による大阪府及び市町村訪問

◎ 8/29 交野市・山本景市長と面談



田中理事、岡本会長、山本市長、上田副会長、牧田専務理事

◎ 9/1 高槻市・濱田剛史市長と面談



荻窪理事、岡本会長、濱田市長、横田副会長、牧田専務理事

9 月度 理事会報告

日時 9月10日(水) 16:00 ~ 18:00
場所 本会東会議室
出席 理事 41/45 名 監事 2/2 名

【審議・承認事項】

(1) 会計報告、入退会

(円)	7月計	累計
収入	10,516,791	82,641,915
支出	7,971,943	42,044,153
差引	2,544,848	40,597,762

(人)	7月	入会	退会
正会員	2,108	4	6
準会員	28	0	0
特準会員	22	0	0
賛助会員	153	3	1
計	2,311	7	7

上記の当期経常増減明細と入退会を承認しました。

(2) 地域貢献活動事業助成の再募集

(一社)文化遺産デザイン研究推進機構より「大阪府ヘリテージマネージャーによる歴史的建造物掘り起こし」活動での申請があり、審査を経て助成を承認しました。

(3) 文化庁補助事業における指摘と今後の対応
文化庁より令和6年度大阪府文化遺産総合活用活性化事業の実績報告書における内部支出について指摘を受け、修正および不用額の速やかな返還を承認するとともに、再発防止に努めるよう要請しました。

(4) 建築人賞の審査委員長について

昨年度まで審査委員長を務めていただいた磯達夫先生のご退任により、今年度の審査より日本建築士連合会の古谷誠章会長にご就任いただくことを承認しました。

(5) 海外団体等との交流

・ミャンマーでの応急危険度判定や耐震補強等の普及促進に向けた、JICA および日本建築センターとの協議

・9/12 ウクライナ全国建築家連合会との交流促進に関する覚書の締結

・9/22 香港工業総会および日本建築材料協会との意見交換会および懇親会

・9/25 上海市勘察設計行業協会との意見交換会および懇親会

・10/6 イスラエル外務省との交流会

【報告事項等】

(6) 臨時総会の出欠回答状況

現在、実出席 19 名、委任状出席 553 名の合計 572 名となっており、メールや往復はがきにより回答を促進します。

(7) おおさか大会の進捗状況

・9/2 時点での申込状況は大会登録 2,898 名、式典 2,578 名、記念講演会 2,083 名、大交流会 980 名となりました。

・学生を対象とした記念講演会、大阪講演の案内には 4 名の申込みがありました。

・国際シンポジウムは韓国、台湾、ベトナム、日本の 4 カ国により、災害時における建築士の役割についてパネルディスカッションを行うと報告しました。

・9/20 の藤本壮介氏、倉方俊輔氏による万博案内には多数の応募があり参加者の抽選を行うと報告しました。

(8) 定款第 21 条 4 項に基づく事業執行の報告を行いました。

ウクライナ全国建築家連合会との覚書締結

9/12 に大阪市中央公会堂にて、ウクライナ全国建築家連合会と本会は、相互間の技術交流・情報交換を目的とした覚書を締結し、その調印式を行いました。



万博建築技術指導顧問に聞く 「2025 国際博覧会(大阪・関西)パビリオン建築現場のお話」

日程：令和7年9月5日(金)

会場：大阪府建築士会東会議室

参加者：25名

樋笠康男(地域まちづくり委員会 大阪市西地域会 代表幹事)



万博会場は此花区、大阪市西地域会の所属範囲ですとの事で、何かしたいねと企画を考えておりました。でも工事期間中はとても見学できそうにないなと、つてを探していると身近な方がおられました。今回講師の萬川さんは西地域会の元代表幹事です。演題にも有ります万博建築技術指導顧問、すごい肩書ですね。これはぜひ何かしていただこうと考えたのが発端でした。萬川さんをお願いすると快く引き受けてくださり、ただ開幕前や開会しばらくは技術顧問現職のためお忙しいかと思い、お話しするのをためらっておりましたら、9月になってしまいました。でもまだ1か月半あります。ぜひお話しいただいて、まだ行っていない方、もう何回も行かれています方にも万博会場に足を運んでいただこうとの講演会でした。

さて当日、萬川さんの所属は日本国際博覧会

協会・・国際部・・と紹介するだけで文字数を使いますので失礼ながら省略させていただいて、早速お話の内容です。まずは万博協会のお話、協会内各部署関係の複雑さ、今回の参加国で王国の多さ、来賓への対応、それらの難しさを克服しながら会場建設に入っていきます。各建設会社の工事範囲の制限、期間が無い中での工事車両のゆずりあいの難しさ、金銭面での大変さ、先日やっと支払いが終わったパビリオンもニュースになってましたね。現場で飛び交う言葉は英語、フランス語、中国語等、さまざまな国の方々の中で進む工事、車いすを要する方への対応にも熱い思いが伝わりました。さあこれからパビリオンの紹介です。オーストリア館のリボン、クエート館の耳、イギリス館の外壁変更、ヨルダン館の砂、ドイツ館の輪、建物半分のタイ館、スペイン館の階段模様は夕日のイメー

ジ、現地の住まいを模したサウジアラビア王国館、インド館は大屋根リングからを意識した屋根のLED面。あれ、萬川さんの説明と順番が違っているのでは?とお気づきの方、私は翌日6日に万博行きを予約しておりましたので、この原稿を現地のリング内を巡りながら書いております。これが今回実際の担当者からお話を聞いた一番の利点ですね。私は万博7回目でしたが、改めて各パビリオンを見て回る事が出来ました。最後にお疲れ様でしたと萬川さんにお礼申し上げて私の報告とさせていただきます。



建築相談室から(100) 執筆を終えるに当たって その2

橋本頼幸(建築相談委員会幹事)

いよいよ最終回を迎える「建築相談室から」について2022年4月の連載再開から最終回までを振り返ります。

1. 1年間の休載

2021年4月に再度建築人がリニューアルされたことに伴って「建築相談」のコーナーが消えてしまいました。私としては、執筆することで報酬をもらっているわけでもないので、「毎月の記事を書かなくなった」以上の変化はありません。建築相談の記事がなければ、年次報告も必要がないので書かないでいました。そうすると、消費生活センターなどとの打合せで使うので書いて欲しい、という要望が事務局から来ました。年次報告はまとめないといけなないのかと思いながら、2022年の3月(通常より10ヶ月ぐらい遅れて)作成したことを覚えています。その後、2022年4月号から建築相談を再開したいという連絡を受け、再開することとなります。

2. 第3期 ～再開から今まで～

2022年4月号は「建築相談室から(60)」で再開し2025年10月の「建築相談室から(100)」を迎えるまで記事を入れるスペースがなかった2023年4月と同年7月の2回を除いて書き連ねてきました。もちろんその2回分の記事も事前には書いていましたが、上述した事情で翌月以降にスライドしています。今回、諸事情により建築相談のコーナーは終了することとなりましたが、もう終わりだよと肩をたたかれなければ、私はずっとネタを探して書いていたと思います。終わるいい機会になりました。

3. 建築相談の執筆を通して

奇しくも2012年7月号の第一回目の記事の冒頭に「建築相談コーナーは、今月から建築相談室で受けた相談内容や相談員が感じたことなどを会員の建築士の皆さんに知ってもらい、業務に役立ててもらおうという趣旨で新しくしました。」と書いてありますが、その気

持ちは私の中で13年を超えた最後まで徹底できたと自負しております。業務が忙しく原稿締め切りに追われたり、相談記録などを眺めていてもまとまらなかったり、攻めた記事を書いて待ったがかかったり、新型コロナ騒動で相談室の活動や相談記録が減ったり、と悩んだり思うように行かなかったこともあり。一方で「届いたら最初に読んでます」「読みやすく読み切れるので毎回必ず読んでます」と会議などでお会いした方に言われたり、他県の建築士会から転載していいかと問い合わせをいただいたりと、続けていてよかったなと思えることもたくさんありました。この後、このコーナーが打ち切られるのか私以外の方が続けるのか私は知りません。13年間にわたり執筆にかかわらせていただいたことに感謝し、延べ145回の連載に幕を下ろします。これまでご愛読いただき、本当にありがとうございました。

建築士会からのお知らせ

【WEB版】確認申請の構造図書作成講座
10/1～12/26 CPD3単位

今まで作成したことがなかった確認申請の構造図書。その作成の基本を知るだけであなたは確認申請の構造図書作成のマスターと呼ばれる。そんな講座がスタート！
訂正項目が少なく審査がしやすい構造図書が作成できれば建築着工も安心。
常に変化している確認申請の世界。改正された壁量計算基準や柱の小径などの、木造使用規定（在来軸組工法）の内容が解る。
※2025年6月12日に開催した同名講座と同内容です。
配信期間 10/1（水）10：00～12/26（金）17：00
受講料 建築士会会員4,000円
後援団体会員4,500円
一般5,000円

令和7年度 建築士定期講習
10/17、11/20、12/12、1/21、2/13、3/26

建築士法の規定により、建築士事務所に所属するすべての建築士は3年以内ごとに定期講習を受講しなければなりません。本年度は令和4年度に本講習を受講された方や、建築士試験に合格された方が対象となります。未受講者は懲戒処分の対象となりますので必ず年度内に受講してください。
▼日程・会場・定員
※10/17（金）大阪府建築健保会館 80名
11/20（木）大阪府建築健保会館 70名
※12/12（金）大阪府建築健保会館 80名
1/21（水）大阪府建築健保会館 70名
※2/13（金）大阪府建築健保会館 80名
3/26（木）大阪府建築健保会館 70名
上記すべてDVD講習です。
※の日程：大阪府建築士会が運営
※以外の日程：大阪府建築士事務所協会が運営
注）各回定員に達し次第、受付を終了します。
時間 9：15～17：00（各講習日共）
受講料 12,980円（消費税含。事前入金）
申込 建築技術教育普及センターHPより

既存住宅状況調査技術者講習
新規講習10/22
更新講習11/7、2/25
CPD新規5単位、更新2単位

既存住宅状況調査は、登録機関の講習を修了した建築士のみに認められる業務です。ぜひ本講習で新たな業務の資格を取得してください。令和4年度に本講習を修了された方は本年度が有効期限となりますので、更新講習をご受講ください。
▼新規講習（DVD）
日時 10/22（水） 9：30～17：00
会場 大阪府建築士会 東会議室
定員 30名（定員に達し次第締切）
受講料 WEB申込21,450円
郵送申込22,000円
▼更新講習（DVD）
日時 11/7（金）、2/25（水） 13：30～17：00
会場 大阪府建築士会 東会議室
定員 30名（定員に達し次第締切）
受講料 WEB申込17,000円
郵送申込17,600円
▼申込 日本建築士会連合会ホームページよりお申込みください。上記以外にオンライン講習も開催いたします。
<https://www.kenchikushikai.or.jp/koshukai/kizonjyutakujiyokyochosa.html>

広域災害調査技術者講習会
第3回『一般火災保険会社の地震保険調査（木造・S造編）』
10/30 CPD5単位

本研修会は、近年ますます懸念が膨らむ大規模な災害に備えて建築士の職能を活かした取り組みの一環として、社会的復旧・復興に資する建物被害等の損害鑑定業務等の調査練度を向上させるため、近畿二府四県の会員向けに開催します。
日時 10/30（木）
10：00～16：00（受付9：30～）
講師 内山鑑定株式会社 大阪本部
上川部長 1級鑑定人
定員 対面方式（定員30名）＋WEB方式
会場 大阪府建築士会 東会議室
※WEB方式はTeams使用
参加費 1,000円

※資料印刷代及び事務局経費
受講対象者 一級建築士、二級建築士

令和7年度監理技術者講習
11/12、12/19、1/14、3/11 CPD6単位

本講習会は建設業法に基づく法定講習であり、建築に特化したテキストを使用し、経験豊富なベテラン技術者の講師による解説と映像で、実務に役立つ情報を提供いたします。
日時 11/12（水）、12/19（金）、1/14（水）、3/11（水）
8：55～17：00
会場 大阪府建築士会 東会議室
定員 30名（定員に達し次第締切）
受講料 WEB申込み9,500円
郵送申込み10,000円
申込 日本建築士会連合会HPより
<http://www.kenchikushikai.or.jp/torikumi/news/2015-07-28-2.html>

既存木造住宅の耐震診断・改修講習会（一般診断法）
12/2 CPD各5単位

本講習会は、大阪府及び府内市町村の木造住宅耐震診断・改修の補助を受けることができる技術者の養成を目的としています（国土交通大臣登録講習ではありません）。講習会の修了者名簿は大阪府及び府内全市町村・関係団体等に常備し、耐震診断を希望する建物所有者等からの問合せに活用します。
日時 12/2（火） 10：00～15：50
会場 大阪府建築士会 東会議室
定員 30名（定員に達し次第締切）
受講料 会員5,000円、一般9,000円
テキスト代 7,300円
「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」

第68回大阪建築コンクール
受賞者講演会＋トークセッション
10/10 CPD2単位（予定）

本コンクールは、建築士と社会との関わりを通じて建築作品を評価し、そのすぐれた実績



Informationの詳細及び申込みは大阪府建築士会ホームページに掲載しています。
http://www.aba-osakafu.or.jp/ メール info@aba-osakafu.or.jp
TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103

をたたえ、建築作品の設計者を表彰するものです。第68回は4作品が受賞し、これを記念して受賞者講演会をいたします。受賞作品のお話はもちろん、建築に対するそれぞれの思いを語っていただきます。

日時 10/10(金) 18:30~20:45

会場 大阪工業大学梅田キャンパス203

大阪市北区茶屋町1-45

参加費 無料(申込不要)

東海道五拾七継を巡る 第1回

大津宿まちあるき

～「道の国」近江 大津宿を歩く～

10/18 CPD3単位

「建築士」2025年8月号に掲載された特集「淀川地域・東海道五拾七継」の大津～淀～枚方～守口～大坂高麗橋までを5回シリーズで巡るまち歩き企画の第1弾です。

大津宿の案内と講師には(公社)滋賀県建築士会のご協力をいただき、学びながら滋賀の建築士会との交流を深めたいと思います。

当日は5kmほど歩く予定です。

日時 10/18(土) 13:30~16:30

終了後に懇親会を企画

(懇親会予算5,000円を予定)

集合 JR大津駅に13:15

講師 (公社)滋賀県建築士会 大津地域会

柴山 直子氏

定員 30名(申し込み先着順)

わくわく探検(駅前シリーズ) 第22弾

大和川付け替えて消えた幻の吉田川跡をぶらり散策
—地名に宿る川の記憶—

近鉄けいはんな線～奈良線編

12/13 CPD2単位予定

建築士の会「東大阪」では、わくわく探検(駅前シリーズ)を開催します。

今回は近鉄けいはんな線 吉田駅を出発してかつての吉田川の流れを地名や地形に探しながら、町の記憶を辿る約4.5kmの歴史散策。失われた川の痕跡とともに、静かにまちの成り立ちを感じてみませんか。

恒例の賞品が当たるクイズもご用意。皆様のご参加をお待ちしております。

日時 12/13(土) 9:00~

集合 近鉄けいはんな線 吉田駅改札

解散 近鉄奈良線 河内花園駅

募集 30名(申し込み先着順)

参加費 会員・一般1,500円 学生500円

行政からのお知らせ

違反建築防止週間

10/15~10/21

国土交通省及び各特定行政庁においては、建築基準法令違反の建築物の是正及びその発生予防に努めており、その一環として、全国一斉に「違反建築防止週間」を定めて実施しております。

建築士や建設業の皆様は、適切な工事監理を行うと共に、建築基準法に定められた中間・完了検査を受検することにより、欠陥のない適法な建築物を建築することが求められています。

また、近年では、地震や風水害による被害が甚大化しております。このような状況において、違法な建築物の放置が大きな被害につながる場合があり、所有者、管理者には常時適法な状態に維持するように努めることが求められています。

このような観点から、大阪府では期間中に建築パトロールやパネル展などのPR活動を通じて、府民の皆様に対し周知に努めております。詳しい活動内容は、下記のホームページをご確認ください。

https://www.pref.osaka.lg.jp/o130190/kenshi_anzen/anzen_kaigi/campaign.html

【補助制度のお知らせ】

大阪府宿泊施設バリアフリー改修等補助制度

大阪府では、誰もが安全で快適な宿泊施設を利用できる環境整備を促進するため、府内の既存宿泊施設のバリアフリー改修等を行う事業者に対して、補助金を交付する制度《大阪府宿泊施設バリアフリー改修等補助制

度》を創設しました。令和8年1月30日まで募集しています。

■補助率 一律2/3

■上限額

工事:3,900万円(エレベーター工事ありの場合)

1,300万円(エレベーター工事なしの場合)

設計:400万円

備品購入:40万円

■詳しくは以下のHPをご覧ください。

https://www.pref.osaka.lg.jp/o130170/kenshi_kikaku/hotel_hojo/hotelhojo_top.html

el_hojo/hotelhojo_top.html



■お問い合わせ

大阪府都市整備部住宅建築局建築環境課

TEL:06-6210-9717

「建築人」Gallery掲載作品の募集

本誌「建築人」は毎月約3,000部を発行し、本会会員をはじめ官公庁、大学、図書館、出版社、報道機関等に頒布しています。Gallery掲載作品は「建築人賞」の候補となります。

●掲載記事 1頁カラー、写真4点程度

●掲載費用 100,000円

※1 初回割引80,000円(設計者および施工者が過去10年間、Galleryに掲載されていない場合)

※2 若手初回割引50,000円(40歳以下かつ建築設計事務所を主宰され※1を満たす方)

●詳細・申込 事務局担当:母倉

e-mail: info@aba-osakafu.or.jp

TEL:06-6947-1961

ウクライナの建築と文化を学ぶ 第2弾

国際委員会 部門長 荻窪伸彦



アメリカの大統領がトランプに変わっても、ロシアのウクライナ侵攻が収まる気配がありません。両国の兵士、国民の犠牲者の数は何万人になっているかわかりません。また、今年の「大阪・関西万博」のcommons C館に展示しているウクライナのコーナーは、行列が絶えることのない状態になっているようです。日本国民の関心はあるのですが、自らウクライナのことを学び、知ろうとする行動は大きくはなっていないようです。万博のウクライナの日ナショナルデーに来日したゼレンスキー大統領夫人は「ウクライナに関心を持ち続けてください」と呼びかけました。遠い異国のこと、長期に及んでいることから何とかなっているのだろうといった心境がそのような状況を作っているのかもしれません。

ウクライナの復興に関しては、世界の建築士の知恵と支援が欠かせません。私たちは今年も「ウクライナの建築と文化を学ぶ」を開催し、関心を持ち続けることの大切さを訴えたいと思います。

セミナーのプログラムは以下です。

1. 今のウクライナ 戦争の中の日常生活、研究、建築教育
(ガリーナ・シェフツォバ教授)
2. ウクライナの現状と市民生活
(トークセッション)
小野元裕氏、河津雅人氏
ガリーナ・シェフツォバ氏
岡本森廣(大阪府建築士会会長)
佐野吉彦(大阪府建築士事務所協会名誉会長)
3. 特別歌唱：ウクライナ国歌
(Ono Aki氏)



岡本会長挨拶

1. 今のウクライナ 戦争の中の日常生活、研究、建築教育

今年、日本で「未来に残したい ウクライナの木造教会」(エクスナレッジ)を出版されたガリーナ・シェフツォバ教授による、これまでの木造教会の研究概要と昨年帰国された際に撮影していただいたキーウ市街の写真、そしてガリーナ教授の教え子による研究内容が報告されました。

多くの木造教会が残っているポリージャ地方での調査状況からみる、木造、石造教会の現状が報告されました。また、キーウ国立建設建築大学での授業の様子では、戦時下、地下防空壕でのセミナーや実習状況、そしてガリーナ教授の研究をもとに、世界の木造建築との比較検討など、実習主義的な感じが伺える報告がありました。



会場の様子

2. ウクライナの現状と市民生活

トークセッションに先立ち、以下の視点からスライドによる説明を行いました。

1) ウクライナの都市構造とキーウの都市の現状と生活

ウクライナの首都キーウには、ウクライナの象徴の一つでもあるドニプロ川が走っています。インフラとしては赤・青・緑の3本の地下鉄があり、市民生活を支えています。そして、まちは独立広場を中心に行政関係の施設、文化施設などが配置されています。その独立広場は今では戦争の犠牲者の旗が並ぶ、象徴の場となっています。まちは19世紀の様式を残

す賃貸住宅が多く残っており、歴史を感じる景観を造り出しています。



ガリーナ教授

2) ザポリジヤの歴史的建築の破壊と創造的復興(河津氏提供)

ザポリジヤにある戦争で爆撃された歴史的建造物の修復の状況の説明がありました。残された部分の外装タイルと同じタイルをウクライナ全土で探し、修復に使用しています。完成後何年かしたら、建物全体が馴染んでくるように考えられています。日本と同じ様な補修法がとられています。

3) トークセッション

トークセッションでは、昨年に続いて岡本会長と佐野名誉会長に登壇頂きました。ヨーロッパにおける木造建築の発展に関して、日本のほかにも世界には多くの木造建築が存在する事実を認識されました。またキーウの大学生の学習の内容やキーウの都市構造に関して、新たに知るところとなりました。



トークセッションの様子

4) ウクライナの報告

小野会長よりウクライナの現状として、NHKで放送された、ウクライナの子供たちを扱ったビデオが流されました。



説明する小野会長

3. 特別歌唱

最後に、小野会長夫人で歌手のOno Aki先生により、ウクライナ国歌「ウクライナは滅びず」をアカペラで披露頂きました。



ウクライナ国歌斉唱

4. まとめ

今回は、このセミナーの目的でもある、これまでのウクライナのまちなみや建築がどのようなものだったのか。今回のロシアの侵攻によりどうなっているのか。市民生活はどのように営まれているのか。我々の問いの答えにいただけるスライドで、説明いただきました。3年以上も侵攻を受け続けているウクライナ。市民の生活において日々不安と先の見えない絶望に疲弊しているかと思いましたが、ウクライナの市民は元気に日常生活を送っていること、壊された建物は早急に修復していることなど、ロシアなどには負けられないといった国民気質を教えてくださいました。セミナー後のスタッフのみでの懇親会では、今後も小野会長をはじめとするウクライナ支援団体と協働でセミナーを進めていくことを確認しました。小野会長はこのセミナー後にウクライナ視察に行かれるとのことです。



懇親会で挨拶する佐野名誉会長



チラシ「ウクライナの建築と文化を学ぶ」(2025年)

- 開催日：2025年6月23日(月)
18:00～20:00
- 開催場所：大阪府健保会館 6階ホール
- 参加者：22名
- 講師：小野元裕氏
(日本ウクライナ文化交流協会 会長)
ガリーナ・シェフツォバ氏
(キエウ国立建設建築大学 教授)
河津雅人氏
(スラブ世界研究所 主任研究員)
- 特別歌唱：Ono Aki氏
- 資料編集：北村ひとみ
- 記録：村上栄司



集合写真

記憶装置としての建築と写真と

新発田カトリック教会 一九六六年

文・写真＝松隈 洋〔神奈川大学建築学部教授〕

二〇二五年三月二二日、拙著『未完の建築―前川國男論・戦後編』の出版記念トークイベントで、新潟県新発田市をはじめ訪れる機会があった。また、幸いなことに、かねてから見てみたいと思っていたアントニン・レーモンドとノエミ・レーモンドが共同設計した木造の新発田カトリック教会にも立ち寄ることもできた。

この催しは、二〇〇六年に新潟市美術館へ巡回された「生誕一〇〇年前川國男建築展」の担当者で、同館の

学芸員だった松沢寿重さんの企画と、新発田市大手町にある吉原写真館の六代目館主で美術家の吉原悠博さん（一九六〇年）の協力により実現した。会場となったのは、一九三六年に竣工した木造三階建てのモダンな白亜の吉原写真館の、今も現役で使われている自然採光の大型傾斜窓を持つスタジオである。建物は外装の修復中だったが、二〇一七年に国の登録有形文化財に指定された由緒ある建物であり、当時の面影を残し



北西側から聖堂と司祭館（右）を見る



内陣を取り囲むアリーナ形の聖堂内観

ながら展示室を設けるなど、清新な空気に包まれていた。驚いたことに、吉原さんの父で五代目の俊雄は、新発田カトリック教会の竣工写真や一九六六年十一月三日の竣工式と感謝ミサに出席したレーモンド夫妻を囲む記念写真を撮影していたのだ。不思議な縁を感じた。そこで、当日の鼎談で吉原さんの話された新発田と写真館の歴史を振り返りつつ、この教会について書き留めておきたい。

新潟駅からJR白新線に乗って約三十分、新発田駅に到着する。新発田市は、現在の人口が約九万人の越後平野の北部に位置する都市である。江戸時代は十萬石の新発田藩の城下町だったが、一八七一年、明治政府によって断行された廃藩置県により、新発田城は取り壊されてしまう。

だが、明治国家の軍事拠点としての新たな利用を目的に、一八八四年、旧城郭の広大な跡地には、陸軍省の管轄で歩兵第十六連隊が置かれ、兵舎が新築される。こうして、新発田は、続く日清戦争、日露戦争から太平洋戦争へと突き進む激動の時代の中で、軍都として栄えていく。

そんな只中であつた一八七〇年頃、内科医だった初代の吉原秀齋が肖像写真を撮り始め、一八九〇年、吉原写真館は現在地に移転して開業する。ちなみに、岡塚章子の名著『帝国の写真師小川一真』（国書刊行会二〇二二年）によれば、旧千円札にも使われた夏目漱石の肖像写真を撮影した小川一真（二八六〇～一九二九年）が、アメリカで写真術を習得し、帰国後、東京麹町に写真館を開設したのが一八八五年だから、吉原写真館の先駆性が見えてくる。残された膨大な写

真には、時代を反映して、歩兵連隊の集合写真や軍事演習、戦争プロパガンダのための写真など、軍都として歩んだ新発田が記録されていた。

それにしても、興味深いのは、一九七八年に上京し、東京藝術大学油絵科卒業後、ニューヨークのアートスクールに学び、坂本龍一やロバート・アシユリーらとメディアアートの協働作品を手がけ、美術家として幅広い活躍をしていた吉原悠博さんが、なぜ父の仕事を引き継ぎ、郷里に戻って六代目の館主となったのか、である。写真雑誌『風の旅人』（第二十五号、二〇〇七年四月）の特集「吉原家の一三〇年」の寄稿文「巡回する歴史の中の自分」によれば、それは、二〇〇五年に帰省した際、土蔵の奥に眠っていた箱入りの約九〇〇枚のガラス乾板を偶然発見し、最新のスキャナーで復元した画像を見たときの衝撃と「畏れの間」がきっかけだった。そして、「地元の町も輝いて見え」、写真のアーカイブを通して、「無名の個人」が「歴史的運動の重要な部分集合として生きている」ことを伝えることが「自分に与えられた使命」に思えたからだという。

さて、公開資料によれば、新発田でカトリックの宣教が始められたのは一八七六年、教会の創立は一九三一年である。そんな長い歴史を持つ教会が、第二ヴァチカン公会議（一九六二～六五年）の典礼刷新という「対面ミサ」形式への方針転換により、建替えられることになったとき、その設計がレーモンドに依頼されたのだらう。レーモンドには、すでに、戦前の聖ポール教会（一九三五年）や、戦後の聖アルバン教会（一九五六年）、

札幌ミカエル教会（一九六一年）など多くの木造教会を手がけた経験があった。そんな彼にとって、聖壇に向かって信徒席が整然と並ぶ長方形平面とは異なる空間構成を試みるこの仕事は、やりがいを感じたに違いない。

竣工後、レーモンドは、設計上のふたつのテーマについて、次のように記している。ひとつは、「新しい礼拝式」に従い、教会に集う信徒が、祭壇のある中央の六角形の内陣を半円形に取り囲み、聖域との密接な関係の結びつきのできるような、象徴的な空間構成を実現させること。もうひとつは、そのために、「日本の大工の驚くべき器用さ」を利用して、「精巧な方法で自然の丸材」と煉瓦の壁により、「日本人の心により近い暖かさ」と共感を呼ぶ内部」をつくり上げることだった。こうして、「すべてが見えかけを排除して扱われ、すべてが簡素で素材である」新しい形式の聖堂が誕生する（『建築』一九六七年一月号）。そこには、ノエミのデザインによる祈祷台を持つ椅子や燭台、和紙を用いたステンドグラスも加わっていた。その意味で、文字通り、晩年のレーモンド夫妻が日本に遺した木造教会の到達点と呼べる建築だった。

今回のトークイベントを通して、新発田の長い歴史を記録し続けた吉原写真館の存在を知り、建築と写真が持つ記憶装置としての意味と可能性を教えられたように思う。「新発田まち遺産の会」をリードし、「写真の町シバタ」を発信する吉原さんのアーカイブ活動が、この教会とどのような歴史を刻んでいくのか、遠くから見守りたい。

2025年 「建築人賞」作品募集



審査委員長 古谷 誠章

早稲田大学 名誉フェロー・名誉教授
NASCA代表

1955年 東京都生まれ
1978年 早稲田大学理工学部建築学科卒業
1980年 早稲田大学大学院博士前期課程修了
1986年 文化庁芸術家在外研修員として、スイスの建築家マリオ・ボッタ事務所(～1987年)
1984年 (有)ナスカ(NASCA)設立
1984年 早稲田大学理工学部助教授(～1987年)
1997年 早稲田大学理工学部教授(現・創造理工学部教授)(～2025年)
2017年 第55代 日本建築学会会長(～2019年)
2020年 早稲田大学芸術学校校長(～2024年)
2021年 東京建築士会会長(～2025年)
2024年～ 日本建築士会連合会会長

「建築人Gallery」掲載作品は 『建築人賞』の候補作品です。

公益社団法人大阪府建築士会は、会員サービスの一環として会報誌「建築人」を毎月発行しています。本会会員をはじめ官公庁、大学、図書館、出版社、報道機関等に頒布し、発行部数は約3,000部です。「建築人」の誌上で「Gallery」の建築作品紹介コーナーを設け、現代建築の様相を反映できるものとして好評を博しており、毎年1月号～12月号のGalleryに掲載された作品が「建築人賞」の審査対象になります。

「建築人賞」は2009年に創設され、個人の審査委員長により選考し、表彰式は翌年5月の本会の定時総会で執り行われます。「建築人賞」「同賞新人賞」「同賞奨励賞」「同賞佳作」があり、「建築人賞」「同賞新人賞」の設計者には記念品が授与され、各賞の建築主、設計者、施工者にはそれぞれ賞状が贈られます。ぜひ本誌に皆様の建築作品の掲載をお願いいたします。



建築人賞



建築人賞新人賞



佐久間 靖 (ガラスアーティスト)

1971年 大阪府高槻市生まれ
1996年 神戸学院大学 法学部 卒業
1997年 ㈱ロクレールプロダクションガラスアーティスト 三浦啓子氏に師事
2016年 ㈱Jiku Art Creation 作品制作に従事

「建築人」Gallery 掲載要項

■ 掲載概要

1頁カラー、写真4点程度、説明文300字程度

■ 掲載事項

- ・建築主、設計者、施工者、協力会社
- ・所在地、用途、竣工年、構造規模、敷地面積、建築面積、延床面積

■ 掲載料

110,000円(本体100,000円+消費税)

※1 初回割引 88,000円(本体80,000円+消費税)

(過去10年間で設計者及び施工者がGalleryに掲載されていない場合が対象です)

※2 若手初回割引 55,000円(本体50,000円+消費税)

(※1を満たす方のうち、40歳以下かつ建築設計事務所を主宰されている方が対象です)

■ 問合せ・申込み

公益社団法人大阪府建築士会事務局 担当:母倉

e-mail: info@aba-osakafu.or.jp TEL: 06-6947-1961 FAX: 06-6943-7103



中心市街地を南北に貫く緑道と都市計画公園に接する豊かな環境



北側の公園に開かれ穏やかな光が入る2層吹抜けの図書館